

学びの 広場

地域で学び、活動する
皆さんを応援します
北秋田市教育委員会



- 公民館活動 ●生涯学習
- 文化振興 ●学校 ●スポーツ

放課後も元気いっぱい笑顔ひろがる

～「合川小児童クラブ」スタート～

合川地区小学校の統合に伴い建設されていた「合川小児童クラブ」が、4月1日にスタートしました。児童クラブは、放課後や学校休業中に共働きなどで保護者が不在となる家庭に代わって、子どもたちに安全な生活の場と遊びの場を提供し、児童の健全な育成を図るため、開設されています。「合川小児童クラブ」は、3クラス編成で141人の児童が登録し、敷地内に整備された遊び場や健康広場では、外でのびのび遊ぶことができるほか、隣接する合川公民館図書室で本を借りたり、合川体育

館でスポーツを楽しむこともでき、指導員の見守る中で、自由遊びを中心に過ごしています。



▲新設された児童クラブで元気に遊ぶ児童たち

成田為三作曲のジャズに酔いしれる

～浜辺の歌音楽館第89回定期演奏会～

ピアノ奏者の早川泰子さんをメインに、ベースの山下弘治さん、ギター佐藤郁夫さんのトリオによるジャズコンサートが、3月7日に浜辺の歌音楽館で開催されました。定期演奏会初のジャズ演奏とあって、110の方が来場し、音楽館ならではの「砂かぶり席」で迫力ある生演奏を楽しみました。スタンダードなナンバーのほか、成田為三作曲のジャズ曲「まぼろしの泉」、「乙女心」、早川さんによりジャズ風に編曲された「浜辺の歌」が演奏され、

来場者は3人の織り成すジャズの世界と奥深い成田為三の魅力に酔いしれていました。



▲成田為三作曲のジャズ曲が披露された演奏会

サケの稚魚3万匹放流

～カムバック縄文サーモン～

サケ放流事業「カムバック縄文サーモン」が、4月18日に伊勢堂岱遺跡下を流れる湯車川で行われ、サケの稚魚3万匹を放流しました。この事業は、サケの放流をとおして湯車川をサケが遡上する川として、遺跡の世界遺産登録推進に重要な周辺環境の保全を目的に行われており、昨年秋には、体長70センチほどのサケの遡上が多数確認され、放流の成果が現れています。現在、工事が行われているため安全を考慮し、市や鷹巣漁協、遺跡ワーキンググループが中心となっ

て放流を行い、4～5年後の里帰りに期待を込め、新たな稚魚を見送りました。



▲湯車川に放流されるサケの稚魚3万匹

阿仁公民館公開講座

開 阿仁公民館 ☎82・2220

●寄せ植え講座

美しい花を楽しむための土づくりから、寄せ植えのコツを学びます。
日時 6月12日(金) 13時30分
場所 阿仁公民館
講師 加藤由美子さん
定員 20人 材料代 1000円
申込締切 5月29日(金) まで
持ち物 小スコップ、手袋



浜辺の歌音楽館少年少女合唱団 団員を募集します

開 文化係 ☎62・6618

郷土出身の作曲家、成田為三先生の作品を中心に、いろいろな曲を楽しく歌い活動しています。素敵なメロディーを歌い継いでいきましょう。
対象 小学校1年生～高校3年生
練習場所 森吉コミュニティセンター
練習日時 9時～12時(毎週土曜日)
後援会費 月1000円

長岐邸一般開放と「葛黒火まつり かまくら」写真展を開催します

開 申 おさるべ元気くらぶ
事務局 ☎090・6101・8906

期日 5月3日(日)～5日(火)
時間 9時～16時

場所 七日市長岐邸

入場料 無料

※詳しくは、お問い合わせください。

図書館からのお知らせ

開 鷹巣図書館 ☎62・3311

市内図書館・図書室より、おすすめの本を紹介いたします。ご利用ください。

●鷹巣図書館

『日本家紋総鑑』(千鹿野茂著)

家紋約2万種類を掲載した日本最大の家紋辞典です。(館内閲覧のみ)
『上昇思考』(長友佑都著) 角川書店
物事に対して前向きに思考する姿勢を学ぶことができます。

●森吉図書館

『毎日ときめく片づけの魔法』

(近藤麻理恵著)サンマーク出版
片づけの具体的なテクニックが紹介されています。

●合川公民館図書室

『クックパッドみんなのおにぎらず』

主婦の友社
にぎらず作れる簡単おにぎりが50点以上登場します。

●阿仁公民館図書室

『声の出ないぼくとマリさんの一週間』

(松本聡美著)汐文社
初めて出会ったマリさんは、不思議な人でした。

ふるさとの文化財

北秋田市指定史跡

○「御狩屋跡」

◇所在地 北秋田市米内沢字大野岱
◇管理者 北秋田市

鷹巣から国道285号線を米内沢方面に向かい吉野地区を過ぎると大野岱に至り、右手に御狩屋跡の標柱があります。

この地は、文化6年(1809年)秋田藩第9代藩主佐竹義和公が阿仁鉾山巡覧の帰途に当地を通った際、休憩をとった由緒ある土地として、旧森吉町で文化財として指定したものです。

郷土史家によると、当時この地は道路(街道)ではなく大草原で、多くの馬が放牧されており、狼が出没し馬を食い殺すことから、飼育農家は大きな被害を受けたとされています。そこで米内沢奉行所は狼退治のため、櫓を組み近郷から村民1万人を集め狼退治の掃討を行いました。

なお、中央の土盛りは、昭和18年に秋田17連隊と弘前師団の合同演習が開催された際、秩父宮が訓示された演台として作られたとい

われています。

◇「菅江真澄」の標柱あり
享和2年(1802年)12月14日曇気楼を見ると記録されています。(『雪の秋田根』より)

真澄は森吉地区に3回訪れていますが、享和2年には森吉山、米内沢、小滝、湯の岱、小又地区を訪問し、その地域の様子を記録しています。

*2回目訪問:1803年 砂子沢、白糸の滝方面(『すすきの濤』)
*3回目訪問:1805年 森吉様方面(『みかべのよろい』)



▲御狩屋跡(米内沢字大野岱)

▽昭和59年3月21日指定史跡
▽資料/「北秋田市指定文化財一覧」(北秋田市教育委員会、森吉在住郷土史家研究資料、住民聞き取り、「北鹿は宝箱」)
▽紹介者/北秋田市文化財保護審議委員 照内捷二